

かん湛！のポイント

水稲無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種栽培

圃場の選定

- **水管理が自由にできる所**
漏水すると除草剤が効きません。鳥害対策にも水管理は重要です。
- **毎日様子を見に行ける所**
出芽や雑草、鳥害の状況を見て入水時期や除草剤の散布時期等を調整する必要があります。
- **スズメの飛来が少ない所**
出芽した芽をスズメやカラスが引っっこ抜きます。
3cm以上の湛水で食害を回避できますが、湛水により苗立数が減少します。

※初めて取り組む場合は、**1枚の水田だけで試すことを勧めます。**

圃場準備・播種

- **荒代かきは移植と同様に行う**
事前の代かきは丁寧に行う必要はありません。柔らかすぎると種子が埋没します。
また、荒代かき後日数が空くと土が固まって覆土できず種子が露出します。
- **荒代かき後2日以内に播種**
- **播種時刻に合わせて落水**
特に晴れの日には田面が露出すると土が固まって覆土できなくなります。
午後から播種する場合は昼前に落水してください。
- **水面50%の水量で播種**
- **播種量は最初7kg/10aから**
苗立率は平均で50%程度です。
苗立数が多い圃場は翌年から播種量を減らしてください。



種子準備

- **種子消毒は必ず行う**
ルーチンシードFS等のいもち剤を使用する場合も別途種子消毒が必要です。
- **播種日に合わせて催芽(移植と同様のハト胸、または根出し)する**
- **催芽後種子を保存する場合は、浸漬種子はしっかり脱水し、根出し種子は紙袋から取り出して、網袋のまま暗所で保存する**
水分の多い状態で種子を保存するとカビが発生したり、芽や根が伸びて播種ができなくなります。
特に芽を伸ばしてしまうと、芽が傷つき苗立ちしません！
やむを得ず保存する場合でも、**5日以内に播種**してください。



- **種子が乾燥した場合は播種前に浸漬・脱水する**
表面が白くなるほど乾燥すると、播種時に種子が浮いて流れる場合があります。
数時間吸水させた後、脱水をしてから播種してください。



※根出し種子は別途マニュアルを参照

播種後の管理

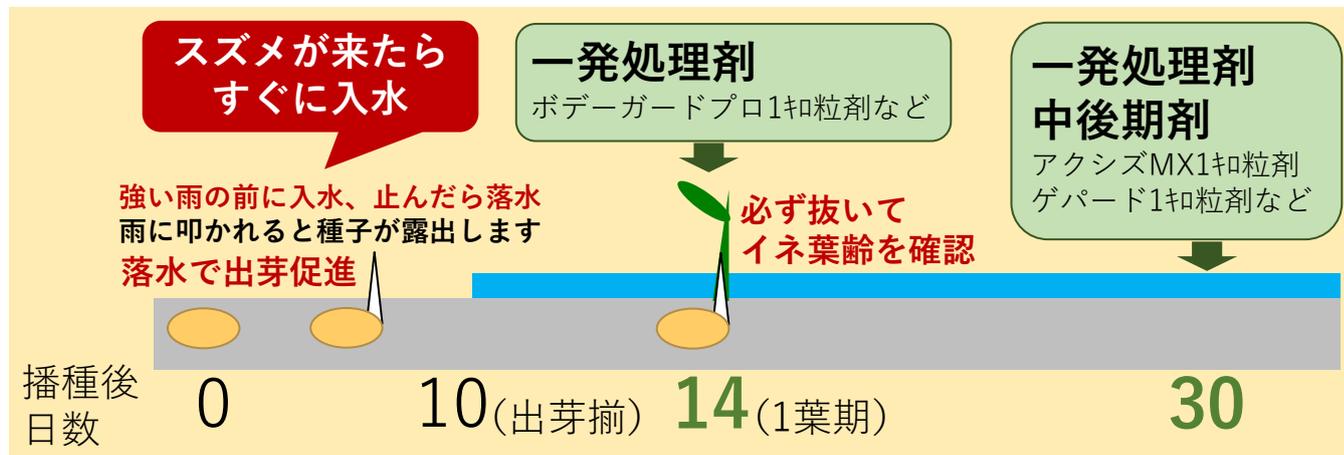
■ **必ず表面播種で実用性が確認された薬剤を使用する**
直播登録がある剤でも表面播種では薬害が出る場合があります



植物調節剤研究協会HP

基本の方法

除草剤・水管理



初期剤を使う方法 (雑草が多い水田、スズメが飛来する水田)

※苗立数が減るので播種量を20%程度多くしてください。



※漏水田では中後期剤として液剤散布が有効です。

※播種後日数は、北東北で5月中旬に播種した場合の例です。

鳥害・病害虫防除

■ **スズメ食害**が見られたら**すぐに入水**

■ 葉が細く針状になっていたら**イネミズゾウムシ防除**

■ **葉いもち防除**は種子処理剤か6月中旬の薬剤散布を必ず実施

■ 倒伏防止のため中干しを徹底

出穂期に田んぼがぬかる状態だと倒伏する可能性があります。



スズメ食害



イネミズゾウムシ食害

お問合せ先：農研機構東北農業研究センター事業化推進室

岩手県盛岡市下厨川字赤平4

電話番号：019-643-3498